

内発的発展における「場」のマネジメントに関する研究

— 島根県邑智郡美郷町を事例として —

A Study of the Management of “Ba” in Endogenous Development -A Case of Misato Town, Shimane Prefecture-

○中島 正裕* 二上 拓真**

○Masahiro NAKAJIMA* Takuma FUTAKAMI**

1. はじめに

我が国の農山村地域の発展過程を論じるにあたり内発的発展論が適用され、理論研究が積み重ねられてきた。一方で、実践現場で有用な計画論的観点からの研究は数少ない。筆者らは“如何にして地域づくりに対する住民の内発性が醸成され発現していくか”が重要と考え、経営学における「場¹⁾」の論理に着目した。「場」が機能すると人々の共通の理解を深め、学習活動により情報を蓄積し、心理的エネルギーを高めるとされている。

本研究では、内発的発展の先進地域を対象に①発展プロセスを解明したうえで、具体的な地域活動における②「場」の検証、及び③「場」の生成プロセスとマネジメントの要件を解明する。

2. 研究方法

研究対象地は島根県邑智郡美郷町（人口 5,198 人、高齢化率 43.7%）を選定した。同町は 1999 年以降、形骸化した獣害問題を契機として住民の自主性を引き出しつつ、イノシシの地域資源化（精肉など）に成功し内発的発展を遂げてきた。

調査方法は、目的①では文献調査及び行政職員等関係者に聞き取り調査を行った。目的②では町内 A 地域での 1 ヶ月の滞在による参与観察と、内発的な地域づくり活動の参加者に対する聞き取り調査を行った。「場」の検証にあたっては、中塚ら²⁾の地域づくりのプロセスに「場」をあてはめた枠組みをもとに分析を行った。目的③では、①、②の結果を基に伊丹³⁾の「場」の論理を援用し、地域活動における「場」の生成プロセスを解明し、生成のマネジメントの要件を考察した。

3. 内発的発展プロセスの解明

美郷町の内発的発展プロセスを解明した結果、

5 つの STEP（獣害問題の改善～資源化事業の拡大）、19 の細目に分類できた（表 1）。そして、STEP ごとにステークホルダー間の関係性を図式化し、キーパーソン（行政職員 Y 氏）とその役割、地域内外の連携主体を抽出した。その結果、STEP4 が同町の内発的発展プロセスの基盤となっていた。

4. 青空サロン市場における「場」の検証

STEP4 の中でも中心の活動となっている青空サロン市場（以下：青空市場）を対象に「場」の検証を行った。獣害に強い畑作りのための研修を実験圃場（青空サロン）で受け、被害防止に成功した住民の「収量増加分の野菜を売りたい！」との意向で青空市場（野菜の直売所）が設立された。毎週水曜日に開催される同市場は、お茶のみ場としての機能も併せ持っていたが、次第に発展し週ごとに担当集落の住民が料理を持ち寄るようになった。

青空市場における「場」を図 1 に示す。青空市場では、参加者同士の自由で活発な“おしゃべり”の中で相互作用が生まれた。これにより、参加者同士での共通理解が深まり、獣害対策以外にも、

表 1：内発的発展プロセス（STEP4 を抜粋）

STEP	細目
STEP4 住民主体の実験圃場・直売所設立 (2006-)	【14】 獣害対策研修会の開催
	【15】 青空サロン(実験圃場)の設立 (2007)
	【16】 青空サロン市場(直売所)の設立 (2008)
	【17】 青空サロン2号店・3号店の設立 (2010・2014)

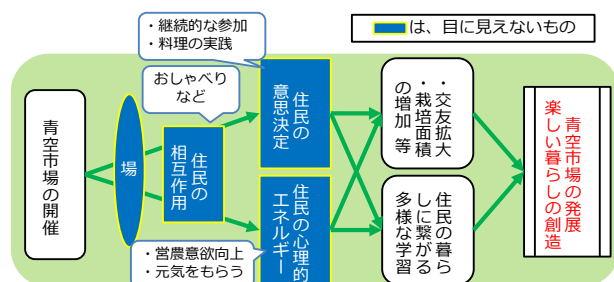


図 1：青空市場における「場」

* 東京農工大学大学院農学研究科 Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology

** 東京農工大学農学部 Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology

キーワード：内発的発展、中山間地域、計画論

地域や青空市場に関する情報が蓄積されることで、心理的エネルギー（営農意欲の向上など）を生み出し、青空市場で「場」が生まれ機能していた。その結果、各人の栽培面積が増える、獣害対策に関する学習の効果なども生まれ、青空市場の発展と参加者の楽しい暮らしにつながった。

5. 「場」の生成プロセスとマネジメントの解明

5.1 「場」の生成とマネジメントの概要

一般に「場」の生成プロセスは【萌芽】と【成立】の視点から4タイプに分けられる（表2）。

【萌芽】は少数の人間の議論を通して小さな「場」が生まれる段階であり、【成立】は【萌芽】が育ち十分な機能を果たすようになる段階である。さらに、それらは他律的なはたらきかけにより『設定』されるものと、自律的な行動に基づく『創発』によるものがある。また「場」の生成のマネジメントは、生成プロセスでの【萌芽】と【成立】を促すためのあり方である。

5.2 青空市場における「場」の生成プロセス

STEP4 青空市場における「場」の生成プロセスとキーパーソンの動きを図2に示す。

青空市場で「場」が生まれる最初の段階は表1の【14】獣害対策研修会の開催である。ここではY氏の提案により、当時研究機関の鳥獣害担当であったI氏による獣害対策の講演会がA地域婦人会主催で開かれた。その後、講演会参加者からの「もっと勉強したい!」との声をきっかけにI氏による研修会がA地域の畑を使って定期的に行われるようになった。この段階が「場」の【萌芽】にあたり、Y氏によって『設定』されたといえる。

その後、I氏は研究機関の事業としてA地域へ実験圃場の設立を提案し、継続的な知識・技術移転を行うようになった。この研修会は獣害対策を楽しく学ぶ基盤となると同時に、定期的になんが集まり会話を楽しむ機会となっていた。その結果、多くの参加者が家庭での被害防止に成功し、営農意欲の向上から栽培面積を増やしていった。こうした成果がきっかけとなり、収穫した野菜を販売する直売所の設立案が参加者の間で浮上し、青空市場が誕生することとなった。こうして始まった青空市場は、不足していた集落間の交流促進につ

表2: 「場」の生成のタイプ

	成立	設定	創発
萌芽			
設定		設計される場	開花する場
創発		育成される場	自発する場

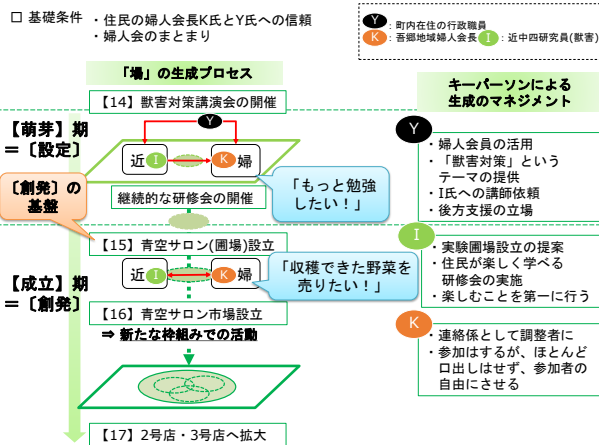


図2: 青空サロン市場における「場」の生成プロセス

ながった。また、農業以外にも暮らしに役立つ多くの情報が交わされており、参加者の生きがいとなっている。この部分が「場」の【成立】にあたり、参加者によって『創発』されたといえる。

以上より青空市場の「場」はY氏の働きかけにより『設定』され、参加者により『創発』したことから“開花する場”に位置づけられると考える。

5.3 “開花する場”のマネジメントの要件

①地域共通の課題を題材とする、②住民に寄り添い活動を進める、③共感できる外部者との連携、④仕掛け人は後方支援に徹する、の4点が【萌芽】の『設定』を促す要件となる。

また、①I氏のように外部主体が住民との信頼関係を築きつつ活動し楽しさを共有する、②K氏のようなリーダー格は調整役にまわり、参加者が自発的に動ける自由さを与える、の2点が【成立】の『創発』を促す要件となる。

注釈・参考文献

- 「場」とは“人々がそこに参加し、意識・無意識のうちに相互に観察し、コミュニケーションを行い、相互に理解し、相互に働きかけ合い、相互に心理的刺激をする、その状況の枠組みのこと”であり、物理的な空間を示すものではない。伊丹(2005)
- 中塚雅也・川口友子・星野敏(2009): 小学校区における地域自治組織の再編プロセス-「場」の生成の視点から-。農村計画学会誌, Vol. 28, No. 3, 135-140
- 伊丹敬之(2005): 『場の論理とマネジメント』東洋経済新報社